

再造林の経費について

2 森林所有者の皆さんへの各種支援内容

再造林への支援が用意されています

国と県による造林補助金に加え、市町村等による支援や、県の助成金と業界団体からの支援があります。

→植栽・保育の事業費への支援：

造林補助金(68%※2)、市町村支援(平均19%※3)など

→再造林の取組への支援：造林地集積促進事業

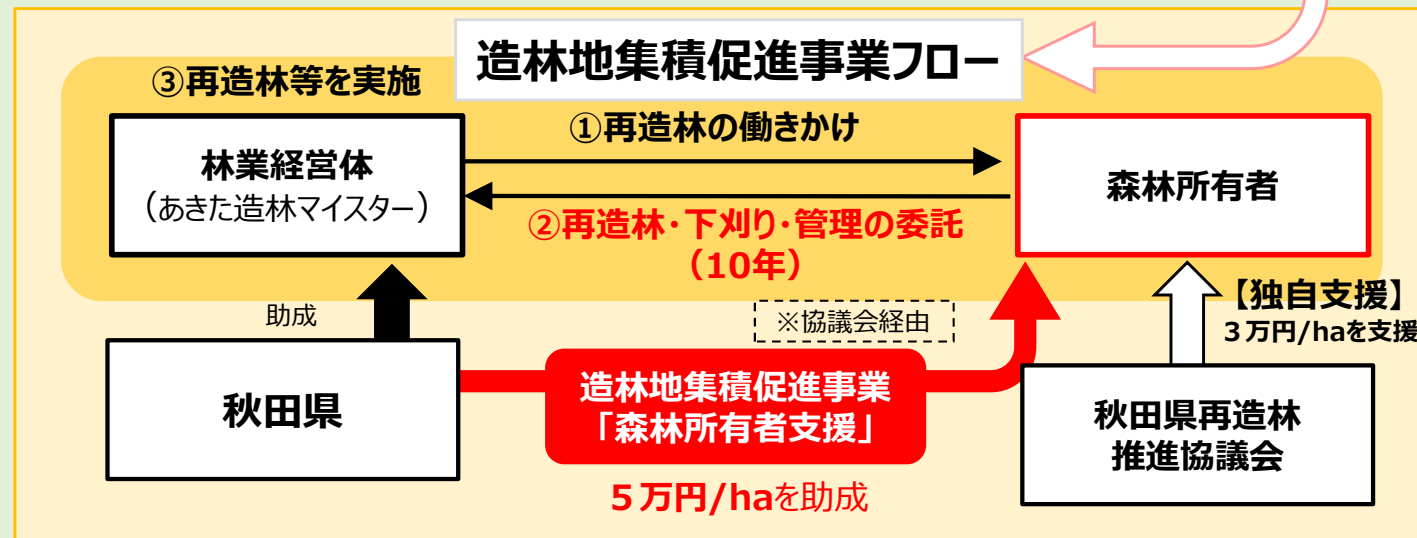
県(5万円/ha)、業界団体(3万円/ha※4)

※1 上記の支援内容は令和6年度4月時点での内容です。

※2 森林経営計画の作成が必要となりますので、あきた造林マイスターへ相談してください。

※3 市町村支援は7～32%(R6.4月)となっています。森林所在地での支援内容は、市町村へ確認してください。

※4 業界団体で組織する「秋田県再造林推進協議会」で支援します。

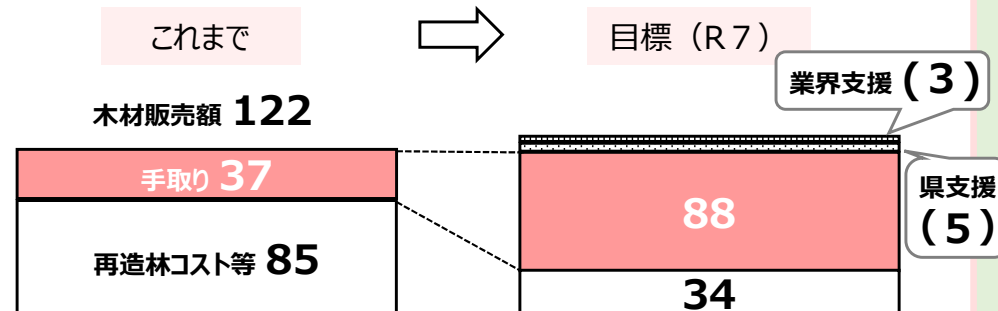


低コスト・省力造林の実施、各種支援の活用

伐採・植栽・保育の収支イメージ

収支試算

(単位：万円/ha)



施業方法	植栽密度	3,000本/ha	2,000本/ha
	下刈回数	2,3,4,5,6年目	2,3,5年目

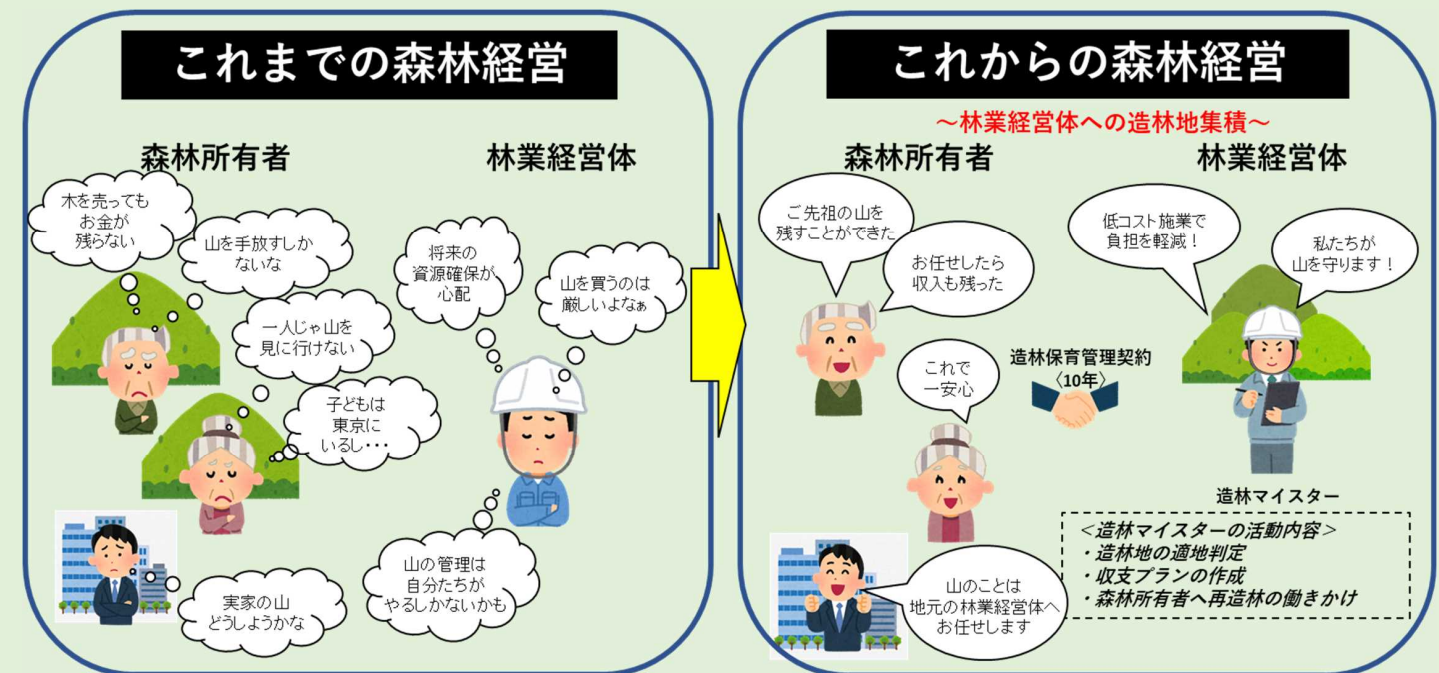
※上記の試算金額はあくまで事例であり、施業内容や林業経営体により収支は異なります。

～ 森林を所有する皆さんへ ～

再造林とその後の保育管理について

「再造林しても、その後の保育や管理ができるか不安」という理由で再造林を諦めていませんか？

その不安を解消するため、
新たな仕組みによる支援を行っています。



1 森林所有者の皆さんに代わって、林業経営体が植栽から10年間の保育管理を行います

森づくりで特に重要な植栽から10年間の保育管理を任せられます。

2 施業計画と収支見込みをお知らせします

将来の森林の姿をイメージしてもらうため、林業経営体に在籍する「あきた造林マイスター」が施業計画と収支見込みの説明をします。

秋田県 農林水産部 森林資源造成課

詳しい内容を
中面でご紹介します

～ ご存じですか?「造林地集積促進事業」～
林業経営体による造林保育管理

造林保育管理契約とは？

森林所有者の皆さんに代わって、林業経営体が植栽から10年間の造林・保育・管理を一括して行う契約です。

林業経営体に在籍する「あきた造林マイスター」が、それぞれの森林に合わせた再造林の事業の仕組みや収支プランなどの説明を行います。

あきた造林マイスターとは？

植栽や保育、収支プランなどについての専門知識を有する者であると県が認定した技術者です。

- ・所有林の施業の計画を立てることができます。
- ・契約前に、将来の所有林にかかる負担額を知ることができます。

契約

10年間、保育・管理などの森林施業を任せることができます。

メリットは？

- ・ **10年間、自分で施業の検討や管理をしなくてもよい**
 → 林業経営体が契約に基づき、必要な施業の提案、毎年の管理を実施します。
- ・ **その道のプロなので安心できる**
 → 取り組む林業経営体は県が認定している「意欲と能力のある経営者」です。
- ・ **当面の所有者負担額の目安が分かります**
 → 契約前に、希望する期間（例えば伐採から植栽・保育の10年間）の収支プランを作成します。

**「所有する森林を伐採したいが、
 どのように伐採・再造林をしたらいいのかわからない」**

という方や、再造林の実施を検討している方は、まずは「あきた造林マイスター」の在籍する林業経営体までお問い合わせください。具体的な伐採・再造林の実施の方法などについてご説明します。

あきた造林マイスターの
 在籍する林業経営体はこちら



～ 森林所有者の皆さんへ～
再造林の経費について

**「伐採して収入が入っても、その後の植栽や
 下刈りの経費などでお金がほとんど残らない」**
 という理由で再造林を諦めていませんか？

1 低コスト・省力造林
施業技術の進歩で再造林のコスト削減が進んでいます

現場の条件に合わせて、低コスト・省力造林技術が開発・実践されています。これにより、従来と比較して少ない負担で、植栽やその後の保育を実施することができます。

(1) 伐採と植栽の一貫作業

伐採、植栽を連続もしくは並行して実施

→ **作業効率の向上、地植え費用の削減**

伐採・搬出

地植え 植栽

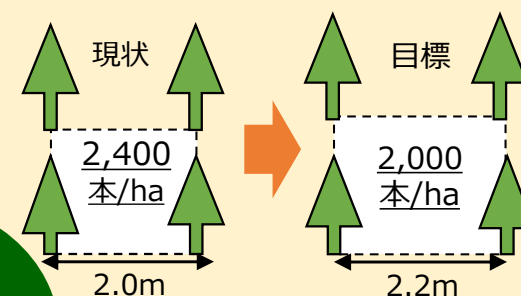
または

地植え (冬期中断) 植栽

(2) 低密度植栽

植栽本数2,000本/ha

→ **作業量の削減、植栽費用の削減**



**低コスト・省力
 造林技術**

(3) コンテナ苗植栽

→ **植栽効率の向上、植栽費用の削減**



コンテナ苗



裸苗

(4) 下刈り回数の低減

植栽後2年目、3年目、5年目の3回実施

→ **作業量の削減、下刈り費用の削減**

1年目 2 3 4 5 6～
 × ○ ○ × ○ ×

※ 状況によっては、下刈りの追加が必要な場合があります。